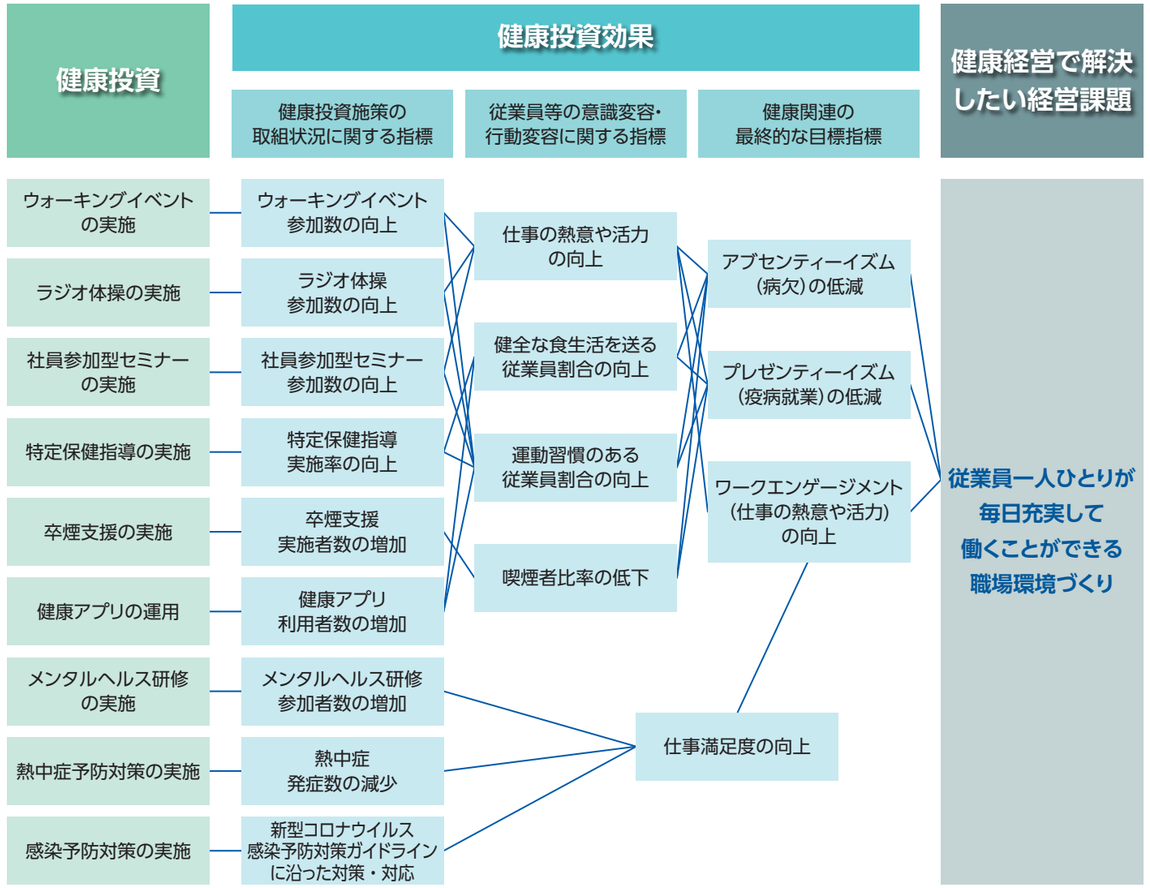
健康経営の推進

社員の安全と健康が事業活動の大前提であり、経営上の重要課題であるとの認識のもと、2021年８月に「山陽特殊製鋼 健康経営宣言」を策定し、代表取締役社長を最高健康責任者とする健康経営体制を整備しました。運動習慣の定着を支援するウォーキングイベントなど社員の生活習慣改善やメンタルヘルス不調の未然防止に向けた取り組みを推進し、社員一人ひとりが毎日充実して働くことのできる職場環境づくりに取り組んでまいります。

山陽特殊製鋼　健康経営宣言（2021年8月）

当社は、従業員の安全と健康が事業活動の大前提であり、経営上の重要課題であるとの認識のもと、健康保持・増進について山陽特殊製鋼健康保険組合と一体となって総合的に取組み、従業員一人ひとりが毎日充実して働くことのできる職場環境づくりに継続して取り組むことを宣言します。

健康経営 戦略マップ



健康経営推進に向けて

社員の心身の不調は、生産性の低下を招くだけでなく、場合によっては休職や離職など人材流出につながりかねません。社員には、法定の健康診断、メタボ検診、健康指導などを実施しているほか、2016年度から義務化されたストレスチェックを継続的に実施しており、社員の受検結果をもとに集団分析を行い、高ストレス者には産業医の面談を勧めています。このほか、メンタルヘルス相談窓口の設置や卒煙支援、食事制限のカウンセリングなども実施しています。継続的改善を行うための会議体として産業医、健康保険組合、労働組合を含めた「健康経営推進会議」を定期開催し、各職場に健康推進役を配置しています。「禁煙の日」の制定や就業時間内禁煙のルール化、空調作業服の支給をはじめとする快適な職場環境形成、運動習慣定着を支援するウォーキングや健康チェックのイベント、始業時のラジオ体操、健康に関する講演会の開催などの取り組みを推進しています。

加えて、2023年度より重点取組課題を踏まえたフォロー指標となるKPI（重要業績評価指標）を選定しました。従業員のパフォーマンス３指標（「プレゼンティーズム」「アブセンティーズム」「ワークエンゲイジメント」）のKPIを活用し、効果検証を行った上で、健康経営の更なる推進を図っていきます。

ウォーキングイベントの優勝チームメンバー

健康チェックイベント

日本赤十字社医師を招いた健康講演会を開催

熱中症防止対策

近年の夏は猛暑が続き、工場内での熱中症リスクが高まってきていることから、熱中症防止対策を強化しています。毎年4月は「準備期間」と位置付け、協力会社を含む工場内の管理・監督者と作業者を対象とした熱中症防止セミナーを開催しているほか、5月から9月の活動期間には、空調作業服や熱中症対策用食品(経口補水液や塩タブレット等)の配布、工場内各所でのアイススラリー（シャーベット状飲料)製造機や低温スペースの設置、WBGT値の把握や水分・塩分補給を促す熱中症防止パトロール等の実施等、さまざまな視点から熱中症の発生を防止するための取り組みに注力しています。

アイススラリー製造機の設置

従業員パフォーマンス指標

	2023年度実績	2024年度実績
プレゼンティーイズム(※1)	69.3	68.5
アブセンティーイズム(※2)	93.4	94.5
ワークエンゲージメント(※3)	46.4	46.2

(※1) 完全に良好な状態（健康問題による仕事のパフォーマンス低下が全く無い状態）を100と定義
(※2) 完全に良好な状態(欠勤日数0)を100と定義
(※3) 仕事に対するポジティブで充実した心理状態で、全国平均を50とした偏差値